

2023年6月4日

「教会の使信」

ルカによる福音書 10:17-24

竹島 敏牧師

イエスが遣わした 72 人の弟子たちは、イエスの名によって悪霊さえも屈服させた、イエスの力がいかに偉大であったかを実感し、喜びと感謝に満ちた報告をしています。しかし喜ぶべきは、弟子たちの名が天に書き記されていること、つまり、自らの存在の根拠が天に刻みつけられている事だとイエスは諭しました。そして、続く 21 節からの段落では、あらゆる病の原因と考えられていた悪霊の働きに勝利させてくださったこと、そして、そのような病の癒しの方法を、知恵ある者や賢い者ではなく、幼子の様な者を神は選んで授けてくださったことの感謝の祈りを、イエスご自身が捧げています。そして弟子たちだけに対して、「あなた方が見ているものを見る目は幸いだ。」と言われます。遣わされた厳しい現状のただ中で弟子たちが見ていたものは、神の国であったのでありましょう。ここに教会の原型を見ることができます。

教会は仲間です。同じ主に仕える仲間です。そして同じ教会の使信・神からのメッセージに仕え、同じ使信に生きる仲間です。王や預言者たちの時代が終わり、イエスの時代になり、さらに教会の時代に入っていました。そこで問われ続けていることは、教会の使信を聞き分ける感性が養われているかどうかということです。天からの使信、すべての人のための使信を、教会は正しく伝えてきたかどうか、ということです。それは今を生きる私たちにも問われていることです。弟子たちが見ているものと同じものを、この私たちも目にするのです。

それぞれが暮らすその地で、あなたがゆく先々を自らの遣わされた場所として、祈りつつ奮闘してゆけますように、お守りとお導きを心から祈ります。